

式 辞

別れの季節に揺れる、巻き戻しのできない時を刻む中、本日、ここに北海道妹背牛商業高等学校閉校式典を挙行するにあたり、公務多忙の中、北海道教育委員会教育長 吉田洋一様、北海道高等学校長協会商業部会長 石垣 巧様妹背牛町長 加藤栄一様をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、さらに、保護者・同窓生・歴代校長先生・旧教職員・北海道高等学校長会・小中校長会・バレーボール・カーリング関係者の皆様にご出席戴き衷心より感謝申し上げます。

顧みますと本校は、終戦後の廢墟混乱の中にも復興のきざしが進み、戦後教育の学制改革後、昭和二十四年に北海道妹背牛高等学校として定時制課程（普通科・農業科・家庭科）が設置されました。「働きながら学ぶ勤労青少年」にも豊かな教養と技術の習得や専門的な知識を得る学習の場が認められて開校して以来、昭和二十六年に別科課程の設置、昭和三十七年全日制商業科六学級設置、昭和三十八年道立移管、昭和四十四年北海道妹背牛商業高等学校と改称するなど幾多の変遷をたどりながら、今日まで地域に根ざした教育の発展、充実に努めてこられました。

しかしながら、近年の少子化にともない、生徒数の減少が急激に進み、平成十八年に募集停止案を受け、本校の存続を求める当町、道内外の関係者の一方ならぬ署名等のお力添えを願いましたが、ここに五十九年の歴史に終止符を打つこととなりました。

この間、妹背牛町をはじめとし、関係者の皆様からの温かいご理解ご協力を賜りながら、平成十一年には創立五十周年記念式典を盛大に挙行いたしました。また、着実に教育実践の成果を積み重ね、二度の教育実践表彰を受賞し、生徒に夢と希望を与え、その具現化をサポートしてまいりました。

部活動においては、昭和六十年全国高等学校タイプライティング競技大会にて全国三位をはじめ、女子バレー部が昭和四十八年の全国総体準優勝、昭和五十三年には全国高校選抜大会で全国優勝を成し遂げ、高体連・国体・選抜優勝大会に通算四十三回の出場を果たし、準優勝三回、第三位四回、ベスト八が十一回という輝かしい足跡を残し、その精神は脈々と受け継がれこの3年間で一万人を超えるバレー関係者の来校があり、生徒に「元氣」を与えて戴きました。また、地域奨励スポーツのカーリングは、体育の授業、部活動において町指導者にお世話になり現在も活動を続けております。このような取り組みが、

本年度の空知教育局、学校スポーツ表彰を受賞させて頂き、有終の美をもって本日を迎えることができました。

これまで本校は、四千五百八十二名の有為な人材を輩出し、当町をはじめ、広く道内外の各分野において活躍してこられました。これも、ひとえに、開校以来、教育の真髄の具現化を目指し教育愛を傾注された歴代校長先生をはじめ、教職員各位のご尽力と、PTAや同窓会による本校にたいするご理解ご支援の賜物であり、今日のすばらしい歴史と伝統を築いて戴いた関係各位に重ねて感謝の誠を捧げ、心より御礼申し上げます。

昨年、妹背牛町庁舎前庭に、桜の木を植樹し、「本校の在りし日々の思いを抱き」丁寧に植樹しました。今後、心をこめて育樹し、妹背牛の大地に力強く根をはりめぐらせ、学校が閉校になろうと、妹背高関係者の「集い・語り、憩い」の絆深きシンボル桜として美しく開花し、さらに、妹背牛町民の皆様へ春の訪れと希望を与えるエゾヤマサクラとして樹齢を重ねることを願っております。

卒業生二十九名の皆さん五十九年の伝統の継承と幕引きを「これ程まで、頑張れるのか」の意気込みでやり遂げましたね。最後だからの言葉で、押しつぶされそうになっても二十九名の仲間の団結と、応援していただいた全ての皆さんに「感謝」で応えようとする健気な姿に、多くの人に勇気と感動を与えていただきました「有り難う。」この後の生徒発表にて、あなた達の創作の手作りの成果を存分にパフォーマンスしてください。

結びに、同窓生の皆さん、校訓「至誠」を合言葉にし、教育理念に基づき輝かしい成果と実践を、一人一人の同窓生の心の支えに、そして、校歌の「遠き誇りを承継がん」の意味のごとく、後生に語り継がれ活かされ、さらに、新たなフロンティア精神を發揮し、真の成熟社会を構築する人材として活躍されることを切にご期待申し上げます。の挨拶とします。

五十九年間、本校を支えていただきました全ての皆様、有り難うございました。

平成二十一年三月二日

北海道妹背牛商業高等学校

校長 滝 田 進